

令和6年度長久手市行政評価票（A票：事業評価表）					対象年度		令和5年度				
事業番号	67	事業名	長久手版プレーパーク整備事業		担当課		みどりの推進課				
			(大事業名) 平成こども塾事業		予算区分（款-項-目-中事業）		9-4-1-3 長久手版プレーパーク整備事業				
					決算書ページ		227 ~ 一般				
I 基本情報	総合計画	基本目標	2	子どもが元気に育つまち	事業開始の背景	子どもが自主的に自由に遊べる場がない					
		政策	3	子どもの健やかな成長を支える環境の整備							
		施策	(1)	子どもが主体的に学ぶ機会の創出					市民・民間事業者との連携協働の可能性	市民とのみ協働可	
	その他	開始年度	令和元年度								
		終了予定年度	☐	年度						☒	未定
		根拠法令等	平成こども塾条例								
		関連計画	平成こども塾マスタープラン、里山プラン、里山基本計画								
	事業の概要・目的	アウトプット（詳細はⅡへ）				アウトカム（詳細はⅢへ）					
		①事業概要 (どんな取組を行うのか)		②活動指標 (取組の進捗をはかるもの。 また、それがどうなるのか)		③中間成果 (①【対象】がどのような 状態に変わるのか)		④最終成果 (大事業の将来像)			
		【対象】 ☒ 市民 ☐ 事業者 ☐ 職員 ☐ その他 対象の数： 60,000 【事業内容】 子どもが用意されたプログラムの中で体験活動をするのではなく、子ども自身の意思と自由な発想のもとで遊ぶことができる里山を整備します。		【アクションプラン指標】 (プレーパーク) 整備か所数 【その他の指標】		運営団体が発足し、プレーリーダーを発掘し育成する。 (成果指標名) 長久手版プレーパークの実施団体数		大事業共通 子どもも大人も「自由に遊べる場」、「居場所」として来るのが楽しい場所、特に大人にとっては互いに相談やわかちあいのできる場所となる。			

活動指標名		単位	基準値（2018年） 目標値（2023年） ※AP指標のみ		区分	R5(2023) 年度	R6(2024) 年度	R7(2025) 年度	R8(2026) 年度	R9(2027) 年度		
活動指標	1	【アクションプラン事業】 （プレーパーク）整備か所数	か所	基準値	—	見込	0	0	0	1	0	
				目標値	—	実績	0					
	2			基準値		見込						
				目標値		実績						
	3			基準値		見込						
				目標値		実績						
	4			基準値		見込						
				目標値		実績						
	事業開始からの経緯											
	令和元年度から東海地区の先進プレーパークを年に1回視察して各所で「実施主体は市民であるべき」との意見をいただいた。その方針のもと市民運営団体とプレーリーダーの発掘を続けてきた。同時に有名プレーパークの運営者に講演を依頼して毎年その周知・啓発に努め、継続してきた。 プレーパーク講演会実施 参加者数：（R 1）大人37人、幼児33人 （R 2）大人9人、幼児2人 （R 3）大人9人、こども2人、幼児4人 令和4年度からは一歩進めて体験会を実施し、更にプレーパークとはどういうものか周知・啓発を行った。 プレーパーク体験会実施 参加者数：（R 4）大人10人、こども8人、幼児3人											
	R5(2023)年度の実績、改善したこと。目標が達成できなかった場合はその理由											
	大きな進展は、プレーパークを運営したいという市民団体（のちに「プレパながくて」と呼称する）が現れたこと。彼らが積極的な活動を行い、プレーパークに関連する映画の上映会や川崎市の有名プレーパーク運営者による講演会（共にみどりの推進課共催事業）などを実施してプレーパークの周知、啓発に努力して大きな進展があったと考える。 平成こども塾を会場として市民団体主催でプレーパークを3回試行し、そのうちの1回は97人を集めてその必要性の高さを感じた。 市民団体による試行プレーパーク実施状況 R 5.10.9（大人16人、こども17人、幼児8人）、R 6.1.14（大人42人、こども28人、幼児27人）、3.20（大人17人、こども14人、幼児8人）											
エピソード												

Ⅲ 事業の成果・課題分析（アウトカムの詳細）	成果指標（CHECK）	成果指標名（中間成果をはかるもの）	単位	成果指標の推移と目標									
		長久手版プレーパークの実施団体数	団体	R3 年度		R4 年度		【現状】 R5 年度		R6 年度		R8 年度	
				0		1		1		1		1	
		成果達成状況						指標目標値の根拠					
		B	A. 想定より良い B. 想定どおり C. どちらともいえない D. 想定を下回っている						プレーパークの実施には、市民主体の運営が必要不可欠であるため、自発的な団体が現れるのは今以上に周知され、機運が醸成されないと困難である。 現在の市民団体は、プレーパーク関連の映画上映会や有名プレーパーク運営者による講演会を実施したりとここまでできる団体は希少であるため。				
	評価の理由、分析												
	令和8年度開始を目標に、現在は平成こども塾で試行しているが、東海地区近隣で見える限り1つの活動場所で活動しているプレーパーク団体は、どこも1つであり、それが望ましい形態であると考えている。												
	加える変化（ACTION）	今後の方向性（3年～5年先）		今後の方向性の理由									
		A	A. 現状維持 B. 拡充 C. 縮小 D. 廃止	今後、運営団体の希望を考慮しつつ活動場所を確保する。運営が始まれば実施回数、利用人数ともに増加する見込み。活動場所としては、現時点ではこども塾周辺の里山が長久手版プレーパークとして想定されているがその活動支援を行う。									
		改善ポイント ※今後の方向性がAの場合は記入不要 (成果指標を踏まえ、総合計画基本目標達成のため、必要性、有効性、効率性、公平性、歳入確保の観点等から見直しの余地のある取組を記入)											
見直しの余地のある取組名		見直しの方向性	理由及び具体的な見直しの内容								見直し可能年度		
1			☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止										

IV 費用	令和7年度予算の方向性（PLAN）	R7年度の費用（R6年度比）		3年間の推移	(単位：千円)	R6(2024)年度	R5(2023)年度		R4(2022)年度		
		A	A. 現状維持 B. 拡充		事業費	予算	予算	決算	予算	決算	
			C. 縮小 D. 廃止			90	90	73	90	74	
		理由			特定財源	合計額					
		市民運営団体のプレーパーク試行が続く予定。それにより、運営団体内部の問題点の洗い出しやその対応を学ぶ。また、市民や参加希望者に対して、プレーパークとは何かについての周知と機運の醸成を図る期間とする。				(内 国費)					
						(内 県費)					
						(内 諸収入)					
						(内 その他)					
		3			一般財源	90	90	73	90	74	
		未定			R6年度予算の内訳 ＜細々節名、 予算額、（R5年度予算額）＞						
		プレーパーク講師報償金 70千円（70千円） 特別旅費 10千円（10千円） 消耗品費 4千円（4千円） 駐車場使用料 1千円（1千円） 道路通行料 5千円（5千円）									